

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	71	大学等名	日本福祉大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組は、在学時の修学状況を客観的に提示するディプロマ・サプリメントを構築することにより、卒業時の質保証を行うことを目的としている。これを達成するために様々な方策を遂行しているが、特に、学生の修学を支援する多くのプログラムを導入し、学修環境の整備にも努めていることは評価できる。
- ・学長を長とする「大学改革委員会」の下に本事業計画責任者や取組学部の学部長で構成される「AP事業推進本部」を設置し、その下に実質的な取組を行う「AP事業推進委員会」を設置して、学内委員会とも連携を取りながら活動を行っている。また、「外部評価委員会」も設置され、客観的なエビデンスに基づいたPDCAサイクルが機能する実施体制が整備されていることから評価できる。
- ・各年度の計画に基づいて、学内外の関係する組織とも連携を取りながら事業を遂行しており、今後の見通しも期待でき、評価できる。また、予算の多くは学修管理システムの開発に充てられるが、補助期間内に完成し、本事業で雇用した専門人材の処遇についてもそれぞれに目処が立っているため、補助期間終了後の継続性に問題はない。
- ・全学組織で本取組を運営し、得られた知見を取組学部以外の学部にも展開する予定である。また、Webサイトや事業報告書、シンポジウム等を通じて事業成果を全国に発信する計画を有しており、評価できる。同種の課題に取り組む他大学に大いに参考になると思われる。
- ・テーマVの幹事校としてキックオフ・シンポジウムを主導し、選定校間のネットワークを促進するとともに、Webサイトを開設してこれらの情報の発信・共有に努めている。また、平成30年度以降も地域別研究会や全国シンポジウムを開催し、同時に他のテーマの選定校との連携も視野に入れて活動する計画を立てていることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・事業目標は概ね達成できているが、一部に目標を下回る取組があることから、これらについては原因を分析し、翌年度以降に向けて対策を検討する必要がある。
- ・選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組については、テーマVで遂行している取組と、本大学が今までに行ってきた取組との関連性を説明する必要がある。